

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生 先行型）の効果検証について

～盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見～

平成28年10月31日

盛岡市

I 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の効果検証について

内閣府地方創生推進事務局から地方自治体に対し、「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の効果検証について（平成 28 年 6 月 17 日付け事務連絡）」の依頼があったことから、市から盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員に対し文書通知（平成 28 年 10 月 21 付け）により「評価及び意見」を依頼し、同交付金に係る効果検証を行ったものである。

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金に係る本市実施事業（盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の「評価及び意見」は、以下のとおりである。

※地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）

まち・ひと・しごと創生に係る先行的取組に対して、地域の実情に応じた地方公共団体の実施計画を踏まえ、同交付金が交付された。

なお、同交付金は、国の平成 26 年度補正予算により措置され、補助率は 10/10。本市の同交付金に係る事業は、平成 27 年度に繰り越し、実施したものである。

【基礎交付】…人口等の算定基準により交付上限額が定められたもの

【上乘せタイプⅡ】…平成 26 年 10 月末までに地方版総合戦略を策定した自治体に交付

Ⅱ 本市実施事業に対する盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価一覧

No.	事業名	交付区分	評価			頁
			有効であった	有効とは言えない	無回答	
1	(仮称)盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定事業	基礎交付	8件	0件	6件	P 4
2	少子化対策(子育て)支援事業	基礎交付	4件	6件	4件	P 5
3	少子化対策(子育て)支援事業	上乘せタイプⅡ	10件	0件	4件	P 7
4	仕事と生活の調和推進事業	基礎交付	9件	2件	3件	P 8
5	盛岡市新産業創造推進事業	基礎交付	7件	4件	3件	P10
6	地域経済好循環推進事業	基礎交付	6件	4件	4件	P12
7	まちなかマッチング事業	基礎交付	10件	1件	3件	P13
8	盛岡広域資源新市場開拓事業業務委託	基礎交付	10件	1件	3件	P14
9	UIJターン就職支援事業	基礎交付	7件	4件	3件	P15
10	高校生等地元定着支援事業	基礎交付	11件	0件	3件	P16
11	北上川ゴムボート川下り大会参加促進事業	基礎交付	10件	1件	3件	P17
12	盛岡芸妓育成事業	基礎交付	7件	4件	3件	P19
13	外国人観光客受入推進事業	基礎交付	9件	2件	3件	P21
14	教育旅行誘致推進事業	基礎交付	4件	7件	3件	P23
15	開運橋魅力向上事業	基礎交付	6件	5件	3件	P25
		上乘せタイプⅡ	5件	6件	3件	P27
16	地域福祉中核人材育成事業(基礎交付)	基礎交付	9件	1件	4件	P28

1 (仮称)盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定事業(基礎交付)

【事業概要】

雇用の創出,子育て支援,まちの魅力向上を柱とする「(仮称)盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するため,有識者会議の設置や基礎調査等を実施し,「盛岡市人口ビジョン」及び「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

- 1 有識者会議の設置
- 2 基礎調査の実施
 - ・結婚・出産等に関する意識調査
 - ・UIJターンに関するアンケート調査
- 3 市民フォーラムの開催
- 4 「盛岡市人口ビジョン」及び「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定

【実績額】 8,509,507円

【KPI】 なし。

【評価(担当課)】 なし。

【今後の方向性(担当課)】

予定どおり事業終了(市総合戦略を策定したため)

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった(8件)

- ・客観的な指標に基づく意識調査,アンケート調査の実施は,KPI策定のために必須の要件と考えます。
- ・戦略策定により基本方針,基本目標,戦略が体系的にまとめられ,KPIや計画事業が明確に設定され,その成果の把握が容易になった。
- ・課題解決に向けた現状把握に有効であったと考えます。
- ・前回(9月28日)の会議で,岩手は公務員も含めた「3年離職率」が他県に比べ10ポイント以上高いとの指摘があった。今後の施策の参考とするためにも,追跡調査をして理由を明らかにする必要があると考える。

○有効とは言えない(0件)

2 少子化対策（子育て）支援事業（基礎交付）

【事業概要】

本事業では、保育所の現場の創意工夫を生かした企画・提案によりながら、子どもたちが遊びを通じて創造性や社会性、地域への愛着などを育てる機会を提供することなどを通じ、特色ある保育環境を整えようとするものである。

1 遊具設置や備品購入、施設修繕

- ・ 各保育所からの企画・提案により遊具や備品等を設置し、それらを活用した新たな保育サービスを提供
- ・ 魅力ある保育環境を提供するため、エアコン未設置の保育室にもエアコンを設置
- ・ 児童センターの備品等を設置し、それらを活用した新たなサービスを提供

2 （通称）赤ちゃんの駅提供

屋内外のイベント会場でもおむつ交換や授乳ができるよう、小型テントや折り畳み式ベビーベッドの貸出しにより、子育て世代のお出かけを支援

【実績額】 32,179,770 円

【KPI】 指標① 遊具設置に参加した保護者の満足度（80%⇒66%）

指標② 赤ちゃんの駅レンタル回数（12回⇒1回）

【評価（担当課）】 地方創生に効果があった

【今後の方向性（担当課）】

予定どおり事業終了（事業終了）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（4件）

- ・ 保育環境の整備については、利用者の要望や、子育て世代にある盛岡市職員など、比較的ニーズやリクエストの把握がしやすく、また、方向修正もしやすいという特徴があります。従いまして、本指標に関しては、大きなブレが発生する恐れは少ないと思われます。
- ・ 赤ちゃんの駅レンタルの回数が少ないのは周知が足りないのでは。周知の方法は従来の手法にとらわれることなく、様々な方法を検討すべき。

○有効とは言えない（6件）

- ・ 遊具設置や備品購入が子育て支援に直結しているとは思えない。魅力ある保育環境についてももう少し議論したほうがよい。（早くから英語に慣れるため、外国人スタッフを入れる、とか）
- ・ 保育環境の整備・充実は非常に重要な事柄であり、保育園等の量の確保だけでなく質の充実を図る必要がある。しかし今回の指標が遊具設置という表面的な内容であり、そこに関わ

った保護者の満足度だけでは到底その達成度をはかれるものではなく、一層の努力を望む。

- より良い保育サービスの提供や、保育環境の改善は、本来取り組むべき事業であること。また、赤ちゃん駅については、レンタル回数が少なく、周知方法に改善を要すると思料される。
- 赤ちゃんの駅レンタルにおける実績 1 回は、利用者ニーズにマッチしていないか、もしくは周知徹底に問題があると考えます。
- 実績値から見て、ターゲットに認知されていたか疑問である。また、施策自体も子育て当事者としてはあまり魅力的に感じない。子育て世代にアンケートを取るなどしてニーズを確認する必要があると感じる。
- 備品等ハード整備も大切だが、本当の意味の待機児童解消を。盛岡市の待機児童数は去年は4月時点で9人だったのが10月時点で198人に膨らんだ。今年4月も統計上0人だったが希望の保育園に入れなかった人が実際には300人近くいた。兄弟一緒に保育園をと希望して叶わず、職場復帰できないと嘆くお母さんの声を聞く。空きのある保育園と保護者の希望のよりきめ細かなマッチングができないか。

3 少子化対策（子育て）支援事業（上乘せタイプⅡ）

【事業概要】

平成 27 年 4 月の「子ども・子育て支援新制度」の創設に伴い、「盛岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準を定める条件」を制定し、クラブの規模（1 クラブ概ね 40 人）や設備（専用区画の面積：児童 1 人につき 1.65 m²以上）の基準を定めたことから、保護者会等が運営するクラブに対し、施設整備に係る補助を実施した。

保護者会運営の放課後児童クラブに対して、放課後児童クラブ整備費の国庫補助に準じて整備に係る補助を行った。（上田学童保育クラブ：補助率 市 2/3，実施主体 1/3）

【実績額】 4,000,000 円

【KPI】 補助を実施した児童クラブの保護者の満足度（80%⇒96%）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

予定どおり事業終了（事業終了）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（10 件）

- ・ 非常に良いと思う。
- ・ 子どもの感想や保護者の意見等によれば、当初目標を上回る指標が得られたことは評価できます。
- ・ 助成要件に合致する放課後児童クラブの整備により、保護者の満足度が向上しており、一定の成果があったと思料される。
- ・ 補助を実施した児童クラブの保護者の満足度は高く、効果が高かったと考えます。
- ・ 指標数値から見ても、満足度が大変高く、対象のニーズに合った支援だったと思われる。

○有効とは言えない（0 件）

4 仕事と生活の調和推進事業（基礎交付）

【事業概要】

民間企業等における自発的なワーク・ライフ・バランスの推進を促すことで、男女ともに働きやすい環境が整備され、子育て・介護・地域福祉における課題解決に資することを目的に、盛岡市内の民間企業等を対象に、ワーク・ライフ・バランスを推進する人材を育成する。

- 1 自らが所属する企業等において、自主的にワーク・ライフ・バランスを推進する人材を育成するための養成講座を開催
- 2 ワーク・ライフ・バランスの考え方等について、広く周知するため、企業の経営者等を対象としたセミナーを開催
- 3 企業向けヒアリング調査等を実施

【実績額】 7,564,073 円

【KPI】 指標① WLB推進員養成講座受講者数（40人⇒43人）

指標② 受講者満足度（80%⇒98%）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

事業内容の見直し（改善）（地方創生加速化交付金を活用した30万市民子育て応援プロジェクトのリーディング事業に位置付け、経営者層への働きかけを強化した取組として、継続して実施予定である。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（9件）

- ・ 非常に良いと思う。
- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ ワーク・ライフ・バランスの推進は、子育て世代の域外流出に歯止めをかけるために重要な施策です。引き続き強化していくことを期待します。
- ・ より推進していくべきと思う。成功企業の実例をもっと評価、共有していく。
- ・ ワーク・ライフ・バランスの推進は時代の要請である。民間の自主的な取組をさらに促進する必要が認められることから、より効果的な事業に見直しの上事業の継続実施が必要と思量される。
- ・ ワーク・ライフ・バランスの必要性を啓蒙する上で効果があると考えます。
- ・ 養成講座の一受講者として、今後の社会の方向性と必要な対策がよく理解でき、受講者同士の人脈もできて非常に良かった。全国的にみても岩手が関東圏に次いで目立って多い推

進員数となっており,全国的なPR効果も大きいと感じる。

○有効とは言えない(2件)

- ・ 経営者の感性はまちまちであると思われませんが,養成講座,セミナーの開催が,必ずしもKPIに結びついているかどうかは疑問があります。経営者側よりも使用者側の意識を比較するような,客観的な調査手法を検討すべきと思います。

5 盛岡市新産業創造推進事業（基礎交付）

【事業概要】

I T 関連産業の集積と産学官民の連携土壌を有する本市の特性を活かし、盛岡市工業振興ビジョンに基づく新産業の創造と集積を促進するため、新産業等用地の候補地選定、コワーキングスペースの開設など、盛岡地域における「しごと」と「ひと」の好循環を確立するための仕組みづくり及び環境づくりを推進した。

1 新産業集積への専門的調査の実施

- ・新産業等用地構想策定調査
- ・デジタルコンテンツ産業クラスター構想調査

2 盛岡市産業支援センターの高機能化による「ひと」と「しごと」の交流を促す環境整備

- ・交流ホールに設置する図書を購入
- ・コワーキング利用に対応したセキュリティシステム改修
- ・セキュリティシステム用 P C ・交流ホール備品の購入

【実績額】 9,171,447 円

【KPI】 指標① 新産業等用地候補地（3 箇所⇒3 箇所）

指標② デジタルコンテンツシェアオフィス候補物件（3 箇所⇒3 箇所）

指標③ 入居者（3 社増⇒3 社増）

指標④ コワーキング登録者（50 人増⇒0 人）

【評価（担当課）】 地方創生に相当程度効果があった

【今後の方向性（担当課）】

事業内容の見直し（改善）

- ・ 新産業等用地は、候補地の著差結果を踏まえ、28 年度に基本計画を策定する。
- ・ デジタルコンテンツシェアオフィスは、遊休不動産所有者との折衝を進め、民間運営のシェアオフィスの設立可能性を引き続き調査する。
- ・ コワーキングは、H28.7 より利用開始予定であり、今後登録者数増が見込まれる。

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（7 件）

- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 雇用吸収力の高い産業の創造・拡大に向けて大学や公設試等の研究機関との連携を強化していくことを期待します。
- ・ 言葉の理解と周知が図られていないのではないかと。

- ・ サービス業が中心の産業構造となっており,ものづくり産業の基盤技術である IT, Iot, AI などの成長分野の導入は欠かせない。計画的に事業を推進することにより,産業人材の定着化も期待される。
- ・ 産学官連携による新産業創出に向けた環境整備に効果があると考えます。

○有効とは言えない(4件)

- ・ 事業のゴールが不明瞭に感じる。仕組みづくり,環境づくりは何のために行っているかを再度確認したい。場所を提供するだけでは何も起こらず,意図をもって動かしていく人が必要だと思う。
- ・ 少数の企業家を対象とした施策ではなく,より幅広く,「自分にもできるかもしれない」と感じさせる広告方法を検討すべきではないかと思います。デジタルコンテンツの利用についてはITに関わる専門分野の知識も求められますが,むしろ,日頃の業務,あたりまえの商品・サービスと最新イノベーションの融合が大きなチャンスに繋がるが多いため,幅広い人材の活用を検討すべきではないでしょうか。

6 地域経済好循環推進事業（基礎交付）

【事業概要】

市内中小企業者等が農林漁業者等と有機的に連携し、地域経済の好循環に資する事業を創出する場合、事業に要する経費の一部を補助する。また補助を通じ、農商工連携や新たな特産品の創出を推進し、地域経済好循環化を図った。

市内中小企業者等が農林漁業者等と有機的に連携し、地域経済の好循環に資する事業を創出する事業経費に補助（補助率 2/3，上限 5,000 千円，1 件）

【実績額】 1,126,600 円

【KPI】 新商品開発・新サービス提供モデル（2 件⇒1 件）

【評価（担当課）】 地方創生に効果があった

【今後の方向性（担当課）】

予定通り事業終了（本事業の実施により新たに提供されたサービスについて、補助対象事業者の継続的な取組による事業効果の増大を期待する。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（6 件）

- ・ 非常に良いと思う。こういった制度をもっと手軽に活用できるとよい。
- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 雇用吸収力の高い産業の創造・拡大に向けて大学や公設試等の研究機関との連携を強化していくことを期待します。
- ・ 農商工連携は、商工業者と農林漁業者双方の知見を活かした新商品の開発などが期待される。一方ではそのマッチングが課題であり、成功事例の創出に継続的に取り組む必要があると思料される。
- ・ 1 件でも実績が出来たことは、今後の拡大に繋がると考えます。従いまして、今回の実績については、フォローをしっかりと行い、今後の取り組みに生かして行くのが良いと考えます。

○有効とは言えない（4 件）

- ・ 地域経済の活性化に寄与する事業は、競争よりもむしろ共同・コラボレーションに注目が必要と考えます。そのためにも、産業と商業取引の状況について具体的に把握したうえで、有機的な取引関係を構築する視点が盛り込まれるべきと考えます。
- ・ 具体的に使われたモデルを知りたい。

7 まちなかマッチング事業（基礎交付）

【事業概要】

市内飲食店の経営者と農畜産物・水産物の県内生産者とが、それぞれの情報を交換する場が極めて少ないことから、商談会や見本市など情報交換の機会を提供する。

地域資源の生産者と市内飲食店経営者が一堂に会した商談会や見本市を実施。

【実績額】 7,006,037 円

【KPI】 商談会参加事業者・団体数（60 業者⇒206 業者）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

追加等更に発展させる（推進交付金を活用し、地元企業の商談会の効果を高める取組の強化を図る。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（10 件）

- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 消費者の視点から見てもこれら商談会や見本市については積極性を増している印象があります。今後も継続すべきと考えますし、より高度な連携による、ビジネス創出について期待します。
- ・ 参加したこともあるが周知がまだ足りないので関係者、または決まった人しか来ていなく広まりが見られていない。
- ・ 地域資源の活用促進の効果が期待される取り組みである。指標として商談会参加事業者・団体数を設定しているが、今後は、商談成約件数や、取引件数など成果を把握できる指標の設定が望まれる。
- ・ 地域資源の発掘と販路拡大に効果があると考えます。
- ・ 市内、特に観光客が多い中心部の飲食店がもっと地元食材を使えるような取組が望まれる。

○有効とは言えない（1 件）

- ・ 参加者・団体数を KPI にするのではなく、取引成立数や実際に販路拡大につながったかどうかを KPI にできないか。商談会や見本市の開催が 700 万以上の価値を創出しているかをきちんと確認すべき。

8 盛岡広域資源新市場開拓事業業務委託（基礎交付）

【事業概要】

盛岡広域地場産業の中核機関である（公財）盛岡地域地場産業振興センターが、盛岡広域8市町内の食料品や民芸品など特産品（地域資源）の出展を募り、それらが一堂に会した展示会や商談会を首都圏等で行い、今後の販路拡大を図った。

首都圏等で盛岡広域の特産品を集めた展示会、商談会等を3回程度開催。

【実績額】 6,523,304円

【KPI】 商談件数（15件⇒20件）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

予定通り事業終了（委託事業者が本事業で実施した商談の成果を継続して活かすことで、新市場の拡大に期待する。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（10件）

- ・ 取組み自体は良いと思うが、費用対効果がどうなのかが不明。
- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 東京での勤務時代から、岩手県のブランド力はかなり浸透してきているという認識がありました。大手デパートなどもよろしいのですが、もう一段小規模な事業者、あるいは海外向けの商談にも広がり期待したいところです。
- ・ 首都圏など大消費地における商談会は地場特産品の販路拡大につながる可能性のある事業である。認知度を高めるためには継続的取り組みが効果的と思料される。
- ・ 特産品の周知PR及び版図拡大に効果があると考えます。一方、商談会後の継続取引に向けたフォローも一考と考えます。
- ・ 地元の人に利用されるためのPRが大事だと思う。

○有効とは言えない（1件）

- ・ 商談件数よりその結果が大事では。商談により取引決定または継続性があったものがあるのか知りたい。

9 UIJターン就職支援事業（基礎交付）

【事業概要】

県外在住の若者を盛岡での就職に導くために、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した情報サイトの構築や、地元の中小企業を中心とした職場見学及び経営者等との座談会、首都圏等でのUIJターン周知活動を実施し、盛岡にどのような産業があり、こういった経済効果を生み出しているのかを周知し、将来の職業選択の一助とする。

首都圏の若者のUIJターン促進イベント等に係る経費（サイトの構築、企業見学会、座談会等を実施）。

【実績額】 9,299,999円

【KPI】 実施イベント参加者延べ数（50人⇒48人）

【評価（担当課）】 地方創生に相当程度効果があった

【今後の方向性（担当課）】

事業内容の見直し（改善）（推進交付金を活用し、地元企業の情報発信の強化を図る取組みに改善して実施する。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（7件）

- ・ 首都圏からのUIJターンを促進する取り組みは必要であるが、イベントの開催に終わらずに、県の施策との連携を図るなど、必要な情報を必要としている人へ伝着実にえる工夫が必要と思料される。
- ・ SNSを活用した情報サイト構築により、実施イベントとの連動による情報発信強化や個別企業説明会への誘導などへ繋げてもらえると良いかと考えます。
- ・ 企画の内容もデザインの面からも魅力的な施策を行っていると感じる。

○有効とは言えない（4件）

- ・ 構築したサイトや企業見学会経由で岩手に就職した人数をKPIにすべき。
- ・ UIJターンを望む若者が何に魅力を感じるのかと同時に、盛岡に暮らすことの意義をあらためてリサーチし、そこに訴える情報発信をしないと意味がないように思われる。
- ・ RESASを活用した産業構造の分析や、各企業の経営状況、経営方針・ビジョンなどを体系的に分析した資料の作成と公開が必要と考えます。
- ・ かけた費用に対する参加者数が少なすぎないか

10 高校生等地元定着支援事業（基礎交付）

【事業概要】

高校生を対象に、地元の中小企業を中心とした職場見学及び人事担当者や若手社員との座談会を実施するほか、保護者や進路指導担当教員等を対象としたセミナーを開催し、将来の職業選択の一助とする。

高校生等の子を持つ親を対象に、地元企業の職場見学会や座談会等を実施。

【実績額】 1,769,040 円

【KPI】 実施イベント参加者延べ数（150人⇒167人）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

事業の継続（推進交付金を活用し、継続して実施する。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（11件）

- ・ 非常に良いと思う。地元のみならず、首都圏や海外で活躍している企業を増やしてほしい。
- ・ 結果が見えるまでに時間がかかる事業であるだけに、継続的な取り組みが重要である。
- ・ 保護者、父兄を対象とした職業教育は重要と思います。
- ・ 学校側と連携していけばもっと参加者数を伸ばせるのではないかな。
- ・ 県内とりわけ盛岡市内の企業への就職を促進することは、人口流出を防止する観点からも必要な施策であり、継続実施すべきものと思料される。
- ・ イベント参加者も目標と超えており、継続して取り組みことで効果が拡大できると考えます。
- ・ 保護者が県内企業を知る機会を持てたことは、県内就職と定着においてとても良かった。
- ・ 前回（9月28日）の会議で、岩手は公務員も含めた「3年離職率」が他県に比べ10ポイント以上高いとの指摘があった。今後の施策の参考とするためにも、追跡調査をして理由を明らかにする必要があると考える。

○有効とは言えない（0件）

11 北上川ゴムボート川下り大会参加促進事業（基礎交付）

【事業概要】

昭和 52 年から実施している「北上川ゴムボート川下り大会」を全国にアピールし、スポーツツーリズム推進の牽引事業とすることにより、本市が目指すスポーツを通じたまちの魅力や賑わいの創出及び観光振興を図ることを目的に、ピーク時には 4,000 人を超える参加者数を誇る当該大会の価値を高め、大会参加者増を図るため、平成 27 年度完走艇数及び完走者数の世界記録挑戦に必要な事業費の一部を補助した。

- 1 レンタルボート購入助成
- 2 世界記録登録料等
- 3 参加料の助成

【実績額】 5,400,000 円

【KPI】 大会参加人数(前年比) (500 人増⇒202 人増)

【評価（担当課）】 地方創生に効果があった

【今後の方向性（担当課）】

事業の継続（盛岡の夏の風物詩として大会が定着しており、昨年の大会で世界記録を達成し参加者も増加したことから、さらに多くの人に参加してもらえるように事業を継続していくものである。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（10 件）

- ・ 知る人ぞ知る大会として、さらなる PR に期待する。
- ・ 毎年の風物詩として定着してきており、職域や団体単位での参加も増加しているように思います。
- ・ 参加人数が伸び悩むのは参加料が高いこともあるのでは。助成でなんとかするのではなく民間の意見も入れた実行委員会を作り、関連事業もふくめた展開で参加料に頼らない大会運営も可能ではないか。
- ・ 盛岡市の良さを知る機会、交流人口の増加にも一定の効果が期待されるが、事業費の縮減に努める必要があると思料される。
- ・ 効果的なプロモーションにより、さらに参加者増が見込めると考えます。
- ・ とても魅力があり支持されるイベントになっていて良いと感じる。マスメディアを通じて全国的にイベントの面白さを発信していけばもっと良いのではないか。
- ・ 川下りは職場や学校の仲間などで参加するグループが多いと思われる。来年 40 周年、ギネスに代わる趣向を考え、新たな参加者を育てて世代交代を図り、イベントを長続きさせた

い。別のイベントだが、2007年にスタートした「いしがきミュージックフェスティバル」は盛岡で唯一の若者を集めるフェスであり、小さな子供を連れた若い夫婦も目立つ。盛岡を魅力的にしているこうしたイベントを応援したい。

○有効とは言えない（1件）

- ・ これまでの参加者の推移が不明なので、目標数値が妥当かどうかの検討が難しい

12 盛岡芸妓育成事業（基礎交付）

【事業概要】

盛岡の伝統芸能を継承する盛岡芸妓を育成して観光資源として活用し、観光客向けの芸能披露機会の創出や体験メニュー事業と連携することにより、観光客の旅行満足度を高め、盛岡観光のリピーターやファンづくりを推進し、観光の振興を図った。

- 1 新たな盛岡芸妓育成を行う必要経費として、講師代や衣装代等を補助
- 2 市内で開催されるコンベンションなどへのアトラクション派遣、盛岡芸妓公開講座、ほか観光客向けの芸能披露機会の創出・体験メニューづくり（満足度調査を併せて実施）

【実績額】 2,500,000 円

【KPI】 指標① 関連事業参加者の満足度（80%以上⇒86%）

指標② 盛岡芸妓新規見習い者数（2人⇒2人）

指標③ 観光客入込数(前年比)（50,000人増⇒117,000人）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

事業の継続（継続により、さらなる効果を図る。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（7件）

- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 盛岡芸妓は、盛岡市の伝統文化の象徴の一つであり、芸妓養成により文化の継承が望まれる。指標として観光客入込数（前年比）を設定しているが、より適切な指標を設定すべきと思料される。
- ・ 特色ある盛岡市の観光地整備に向けて、新たな施策も追加していくのが良いと考えます。
- ・ 特色ある事業であり、話題性と観光資源としての価値があると感じる。
- ・ ファンがアイドルの成長を応援するのと似た感覚で市民も観光客もちょっとしたタニマチ気分を味わえるのがいい。伝統芸能＝文化を育てているという自負のようなものも生まれ、女性も敷居が低い。

○有効とは言えない（4件）

- ・ 観光客の旅行満足度向上につながっているか不明。また指標③の観光客入込数は、この事業によって増加したと言えるのか。
- ・ 知名度が定着していない。従来のイメージを超えた新たな活用方法、ブランド化の取り

組みが必要。

- 観光客の入込数の増は、盛岡芸妓が要因ではないのではないか。
- 満足度に対し、実質のプログラムとしての具現化が足りない。大会コンベンションでの披露のみではなく、料亭など連携した観光プログラムの構築を求める。

13 外国人観光客受入推進事業（基礎交付）

【事業概要】

増加が期待される外国人観光客の受入推進に向けて、市内の観光関係者・団体が連携・共同して取組可能な外国人観光客向けの体験交流プログラムや着地型旅行商品の開発など、外国人観光客の受入推進を図った。

台湾をはじめ外国人観光客の誘客促進に向けて、現地キーマンの招聘・FAMツアー、まち歩きや体験交流メニューなど盛岡ならではの着地型商品の開発、地元商店街や関係観光団体とのタイアップ事業の企画など、外国人観光客の受入態勢整備を行うための海外向けHPやガイドブック、多言語対応案内表示の調査検討、セミナー開催経費

【実績額】 5,920,171円

【KPI】 指標① 外国人接客のためのおもてなし講座の参加者数（100人⇒160人）

指標② 外国人観光客入込数(前年比)（1,000人増⇒3,900人）

【評価（担当課）】 地方創生に非常に効果的であった

【今後の方向性（担当課）】

追加等更に発展させる（本事業結果を踏まえ、新規事業を実施予定。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（9件）

- ・ 非常に良いと思う。リピーターになってくれるよう、いろいろ施策を打ったほうが良いと思う。
- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ セミナーに私も参加したが、その内容を実践しているお店は少ない。実践例、またそれによって成功している例などを共有して意識を高める努力も必要ではないか。
- ・ 訪日外国人観光客の入込は、引き続き期待されることから受け入れ態勢整備や、おもてなし講座は必要。一方、盛岡市のみの取組では効果が薄いことからより広域連携を図る必要があると思料される。
- ・ インバウンド受け入れに向けた環境整備として効果があると考えます。また、台湾などのインバウンドの主要ターゲットに対しては、相互送客に向けた県内からのアウトバウンドの取り組み強化も図るべきと考えます。
- ・ 一流の講師を招き講座を複数回開催できたことで、受入店舗や関係者の意識が向上したと感じる。

○有効とは言えない（2件）

- インバウンドの取り込みについては、地元事業者との意見集約により、積極的に進められるべきと思われるが、一方で、経済環境の変化や国民性の違いなどによる新たな課題も現れている。盛岡市として、どの国から、どの程度のレベルの観光客を誘致したいのかについて戦略を定めることも必要なのではないかと。
- 講座参加者の数だけでは、受け入れ体制の整備までは繋がっておらず具体的な地元が連携した盛岡市内滞在の為のプログラム構築。情報発信, 受入れ窓口の連携を求める。

14 教育旅行誘致推進事業（基礎交付）

【事業概要】

歴史、文化、自然、先人など本市の特色ある観光資源とテーマ性を生かした教育旅行の誘致は、本市の重要な観光施策であり、かねてから誘致説明会で要望の強かった自主研修散策用マップを作成し、更なる誘致を推進するとともに、民間団体の歓迎イベントの活性化を図る。これらの取組により、来訪した子どもたちの盛岡の印象度を高め、家族や友人との再訪意識を醸成し、将来的なりピーターづくりと観光客の誘致促進を目指す。

- 1 市内の自主研修の見どころやおすすめスポットに加えて、修学旅行生の利用に特化したランチ・土産などの店の案内マップ作成経費
- 2 修学旅行支援団体に対する歓迎イベント等の活動を補助（4団体）

【実績額】 2,688,600円

【KPI】 指標① 修学旅行の来訪学校数(前年比) (20校増⇒△155校)

指標② 観光客入込数(前年比) (50,000人増⇒117,000人)

【評価(担当課)】 地方創生に相当程度効果があった

【今後の方向性(担当課)】

事業内容の見直し(改善) (一部事業の継続及び見直しにより、効果の向上を図る。)

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった(4件)

- ・ 修学旅行先としての盛岡の魅力を伝える取り組みは必要。県、県観光協会等とも連携し、北海道、首都圏のエージェントや、学校、教育委員会への働きかけが必要と思料される。
- ・ 修学旅行と観光客入込数という指標がリンクするわけではない。週末ランチをやっているところを増やさないと観光客は来ない。公共交通の大胆な見直しが必要。

○有効とは言えない(7件)

- ・ 指標①は目標に達していないが続けるべきだと思う。ターゲットを子どもではなく、旅行先を決める決裁権がある教員にして戦略を立てたほうが効果的ではないか。
- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 少子化から、学習旅行の減少は避けられず、また、競争も激化している。今後はより魅力的な学習プログラムの設定と、戦略的な誘致活動がますます重要となると思う。
- ・ パンフレットを作る、マップを作るといった待ちの施策だけではなく、より積極的にPRしていく施策が必要ではないか。
- ・ 北海道新幹線開通により、札幌以南の公立中学校は仙台駅まで足を伸ばし山形・福島・

宮城沿岸域に向かっていることもあり,教育旅行誘致に向けた新たな施策(盛岡市を選ぶ理由)とプロモーション強化が必要と考えます。

- 施策自体の目新しさを感じない。他県の事業を調査した上で,他県の「やっていない」ことをする視点が必要ではないかと感じる。

15-1 開運橋魅力向上事業（基礎交付）

【事業概要】

盛岡駅から市内中心部に向かうコース上にある開運橋は、「盛岡の玄関口」として「二度泣き橋」の言い伝えがあるように盛岡の人情や暮らしやすさを象徴する観光資源である。

観光ハイシーズンや中心市街地で開催される各種イベントに合わせて、盛岡駅と中心市街地を結ぶ盛岡のランドマーク・開運橋をライトアップすることにより、夕方から夜にかけての市内観光の魅力を高めるとともに、ライトアップに合わせた賑わいの創出などPRイベント等を実施し、観光客の滞在時間の拡大を図り、観光振興につなげる。

- 1 開運橋にライトアップ設備を設置
- 2 開運橋ライトアップに合わせた賑わいイベントを実施

【実績額】 22,239,320 円

【KPI】 指標① 観光客入込数(前年比) (50,000 人増⇒117,000 人)

指標② 宿泊者数(前年比) (10,000 人増⇒△21,000 人)

【評価（担当課）】 地方創生に相当程度効果があった

【今後の方向性（担当課）】

事業内容の見直し（改善）（一部事業の継続及び見直しにより、効果の向上を図る。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（6件）

- ・ ライトアップ自体は良かったと思う。指標の取り方に問題があり、直接的な指標になっていない。むしろイメージアップへの貢献など、広い視点、長い目で評価するべきである。
- ・ 開運橋の改装以降は、四季おりおりに特徴あるおもてなしが可能となっており、とても良いと思う。ただ、橋は橋で、通過点に過ぎないので、その先の、行き先を含めた具体的な提案が必要なのではないか。
- ・ 開運橋を観光資源としてブラッシュアップすることにより、盛岡らしさを演出効果が期待される。併せて、関連事業やイベントも盛岡市の魅力アップにつながる取組と思料されるが、経費の縮減を図られたい。
- ・ ライトアップは良い。他の橋でもできないか。

○有効とは言えない（5件）

- ・ 事業とKPIの関連付けが難しい。
- ・ 観光資源になるほどの物語創出には至っていないと思う。
- ・ 開運橋魅力向上は観光客誘客の素材としては期待できると考えます。一方で、SENDAI 光のページェントのように、開運橋魅力向上を観光素材として他のイベント等と連動させて

誘客に繋げる企画とプロモーションを強化する必要があると考えます。

- ランドマークとして、ライトアップなどによる認知度向上は必要と思うが、そのことがどの程度観光客の増加に寄与するのかは疑問。現指標よりもっとこの事業に特化した指標で効果を確認した方がよいと思われる。

15-2 開運橋魅力向上事業（上乘せタイプⅡ）

【事業概要】

開運橋ライトアップについて、議会での意見や市民アンケートを実施した結果、色の種類を増やす要望が多くあった。このことから、白色のみから色の種類を増やし「盛岡の玄関口」である開運橋の魅力をさらに高め、関連事業と連携し木伏緑地の活用や賑わいの創出を図ることで、観光客への話題の提供、観光の振興につなげる。

- 1 開運橋のライトアップ設備設置に係るカラープログラムライト経費
- 2 開運橋ライトアップのカラーを活用し、関連事業と連動したイベントを実施

【実績額】 5,880,640 円

【KPI】 指標① 修学旅行の来訪学校数(前年比) (20 校増⇒△155 校)

指標② 観光客入込数(前年比) (50,000 人増⇒117,000 人)

【評価（担当課）】 地方創生に相当程度効果があった

【今後の方向性（担当課）】

事業内容の見直し（改善）（一部事業の継続及び見直しにより、効果の向上を計る。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（5件）

- ・ ライトアップ自体は良かったと思う。指標の取り方に問題があり、直接的な指標になっていない。むしろイメージアップへの貢献など、広い視点、長い目で評価すべきである。
- ・ 良いと思う。どこから見るのか、ビュースポットの設定により、複合的な提案が重要と思われる。

○有効とは言えない（6件）

- ・ 事業と KPI の関連付けが難しい。
- ・ 地元の人たちにとっては、明るくなり良かったが観光資源になったとは思えない。
- ・ 開運橋魅力向上は観光客誘客の素材としては期待できると考えます。一方で、SENDAI 光のページェントのように、開運橋魅力向上を観光素材として他のイベント等と連動させて誘客に繋げる企画とプロモーションを強化する必要があると考えます。
- ・ ランドマークとして、ライトアップなどによる認知度向上は必要と思うが、そのことがどの程度観光客の増加に寄与するのかは疑問。現指標よりもっとこの事業に特化した指標で効果を確認した方がよいと思われる。
- ・ 国体期間中に開運橋たもとの堤防沿い緑地に飲食テントなどを設け、にぎわいを演出していたのはよかった。例えば材木町「よ市」は土曜午後だけだがもっと知られてもいいし、規模が広がってもいい。駅から線で誘導できないか。

16 地域福祉中核人材育成事業（基礎交付）

【事業概要】

地域福祉計画に基づき、地域における福祉の中核的な人材の育成を目的として、モデル地区（2地区程度）における取組と連動した、実践的な人材育成に取り組む。

まちづくりの外部専門家を招聘したワークショップ等の開催経費（全15回）

【実績額】 2,774,664円

【KPI】 指標① ワークショップ参加者数（30人⇒32人）

指標② 参加者満足度（80%⇒81%）

【評価（担当課）】 地方創生に相当程度効果があった

【今後の方向性（担当課）】

地方創生に非常に効果的であった（地方創生加速化交付金を活用した盛岡30万市民子育て応援プロジェクトのリーディング事業に位置付け、実践的な講座を中心とした取組として、継続して実施予定である。）

【盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の評価及び意見】

○有効であった（9件）

- ・ 非常に良いと思う。
- ・ 継続的・戦略的な事業推進が必要な案件であり、今後さらに発展させて取り組むことを期待する。
- ・ 今後高齢化が進む中で、まちづくりと地域福祉はきっても切れない関係性を帯びてくると思われる。KPIとしては、具体的な取り組みの成果についても、紹介していくべき。
- ・ 高齢社会において、地域における中核的人材育成に対するニーズは高まるものと思料。計画的な福祉人材の育成が望まれる。
- ・ 今後必要性が増す福祉にかかわる人材の重要性を啓蒙する上で効果があると考えます。また、人材育成に向けては、より実践的な職業訓練によるスキルレベル向上や正社員化促進などのサポートも重要と考えます。
- ・ 指標目標は達成できており、効果があったと思われる。

○有効とは言えない（1件）

- ・ ワークショップ参加者がどのように生かしたかなど、フォローが必要だと思います。

事務連絡

平成28年6月17日

各都道府県

地方創生担当課

財政担当課

市町村担当課 御中

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）
の効果検証について（改訂）

内閣府地方創生推進事務局

平素より、地方創生に向けた様々な活動にご協力をいただき御礼申し上げます。

標記については、先般、4月28日付の事務連絡により依頼させていただいており、ご提出いただきました地方公共団体におかれましては、業務多忙の中、ご対応いただき誠にありがとうございました。

さて、地方版総合戦略の基本目標を達成していく上では、具体的な成果目標（KPI）を設定し、その効果を検証して必要な改善を行うこと（PDCA サイクル）が前提であり、交付金事業においてもこれらを着実に行っていただくことが必要です。

つきましては、外部有識者による効果検証委員会の開催の速やかな実施をしていただきますようお願いいたします。

併せて、外部有識者による効果検証委員会の開催に向けて一定の期間が必要などの理由により、KPIの実績値等が未記入のままご提出いただいた地方公共団体がありました。下記に示す全ての情報を必ず記載いただいた上で6月30日（木）まで（必着）に内閣府にご回答下さい。外部有識者による効果検証委員会が未実施の場合であっても、全ての地方公共団体でご回答下さい。

なお、各都道府県におかれましては、管内の市区町村にその旨周知徹底方お願い致します。

<参考2>

盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 委員名簿

	氏名	所属・役職等	備考
1	伊藤 玲子	社会保険労務士	
2	植田 眞弘	岩手県立大学 地域政策研究センター長	
3	北田 歩美	りんご工房きただ	
4	北田 耕嗣	公益財団法人さんりく基金 三陸 DMO センター 観光プロデューサー	
5	佐藤 浩紀	(株)東京商工リサーチ盛岡支店 課長 (情報担当)	公募委員
6	鳶田 洋一	(株)ベアレン醸造所 専務取締役ブランドマネージャー	
7	鈴木 拓	岩手県北自動車(株) 副社長	
8	戸田 達史	(株)岩手銀行法人戦略部 公務・地方創生室 担当部長兼室長	
9	中村 好子	(株)IBC岩手放送 放送本部報道局報道部部长	
10	橋本 良隆	盛岡商工会議所 専務理事	
11	船場 ひさお	岩手大学 COC 推進室 特任准教授	
12	三上 洋介	(株)クーシー岩手研究室 室長	
13	三田 林太郎	三田農林(株) 取締役社長	
14	村松 直子	信幸プロテック(株) 専務取締役	

(五十音順)